

# こころでわかる支援者エンパワメントセミナー

EPO2015

参加者募集!

～<自閉症の世界>から、知的(発達)障害者の「支援と関係性」を考える～

—1984年「自閉症は関係の中で起こる症状である」(『自閉症とは何か』小澤勲著)としたことが、新しい時代の起点となった。それまで医学的観点で語られていた自閉症概念は、精神科医の著者によって社会的範疇として把握されなおして、社会的まなざしの下へ。つまり、ともに生きる社会が求められてくる。—知的(発達)障害者の「支援と関係性」にあたって、自閉症の世界を捉えることが原点的だと思える理由が、ここにあるのではないだろうか。

EPO2015-自閉症概念の始まりから～現在の<自閉症の世界>を捉えます。そして地域で生きる事例は「支援と関係性」の核心へ!

■講師陣 浜田 寿美男(奈良女子大学名誉教授/立命館大学特別招聘教授・発達心理学、法心理学)

村瀬 学 (同志社女子大学教授・児童文化、障害児教育)

高岡 健 (岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学准教授・精神科医)

2015年3月21日(土) 1日目 プログラム (予定)		講師
10:00(受付9:30～) オリエンテーション		EPO
① 10:10	□クマのプーは本当に「おばかさん」なのに、なぜそんな「プー」がこんなに人気があるのか、わからないひとは本当にわからないのですよ。 —小澤勲『自閉症とは何か』から『認知症とは何か』へ	村瀬 学
② 12:50	□「心の理論」から、「世界の理論」へ —凡人との「違い」は脳か?それとも隠喩か?	高岡 健
③ 14:40 —16:50	◇自閉症スペクトラム～小道モコの場合 「あたし研究」/村瀬さん、高岡さん、山田さんの話を聞いて 「小道さんと出会って、僕が歩んできた道」	小道 モコ 山田 有信
2015年3月22日(日) 2日目 プログラム (予定)		講師
10:00 はじめに		EPO
① 10:10	□自閉症という現象に出会って「私たち」の不思議を思う —わかりあうことの奇跡とわかりあえないことの自然—	浜田 寿美男
② 12:50	◇自閉症スペクトラム～事例報告 事例1 「結構危ない橋を渡って来て、崩壊してもおかしくなかった」 —こだわりを張り巡らすWさんは起こした事件で危機を迎える。それが、どうして20年を超えた今も一人暮らしを支え続けることができたのか。 事例2 「イノセントワールド—晴れのち晴れ」 —「曇りもしくは雨」なら、誰かれ構わず掴みかかる。天気が悪いと不安定なTさんのこだわりはパターン化して助長される。傷やあざだらけでも「嫌なもの嫌」。	長尾 祥司 (パーソナルひらかた)  福 寛 (そうそうの杜)
③ 15:30 —17:30	◇フォーラム:自閉症の世界から、知的(発達)障害者の「支援と関係性」を考える(事例報告を受けて) ◇トークの場 —全体の質疑応答&まとめ	村瀬学・高岡健 ・浜田寿美男 (事例報告者の応答含む) 講師陣 & 参加者

■期日 2015年3月21日(土)、22日(日) ■会場 大阪社会福祉指導センター(谷町6丁目) ■受講対象 知的(発達)障害者の支援にかかわる方、並びに本テーマに関心のある方(福祉・教育・保育・相談・行政・司法・医療・大学の各機関・現場等) ■受講料 10,000円/2日間(資料代込み) ■定員(200名)になり次第、締切り —障害者と支援者をつなぐ—

■申込先 FAX:06-6320-6068 メール:npoeo@nifty.com エンパワメント・プランニング協会(EPO)

人どうしは誰もが通じ合えるはず、わかり合えるはずだと思っている。そして、その前提が崩される人に出会ったとき、その「わからなさ」を、こちらの勝手な感覚で「自閉」と名づけた。「自閉症」という言葉の語源は、おそらくそこにある。それをいまは「発達障害」という言葉でくろうとしているけれども、「わからなさ」を相手のせいにして点では「自閉症」と変わりはない。たしかに自閉症は「わかりにくい」障害である。

だからこそ、それを「わかろうとする」。そうした試みがあればこれとなされてきた。私たちがまたそれぞれにその試みに加わってきたつもりでいる。ただ、その中味は三人三様。それでも共通なのは、脳の障害などに結びつけて簡単に「わかった」とは言わないこと、しかし一方で、安易に「わからない」とは言わないこと。今回のEPOセミナー2015でもまた、たがいにその「根」からの議論を交わし合えればと思っ ています。是非、この議論に参加してください。(EPOセミナー長・浜田寿美男) \*申込書は裏面に



氏名			男・女 (20・30・40・50・60歳代以上)
住所	〒(自宅・職場)		
連絡先(自宅・職場)	電話番号		FAX
	メールアドレス		
自己紹介(所属団体・職業・活動 etc.)			

〒533-0023大阪市東淀川区東淡路2丁目4-3-111 特定非営利活動法人エンパワメント・プランニング協会

\* 問合せ: TEL 06-6324-1133 \* 申込締切り: 定員になり次第 (1日のみの特別参加は、ご連絡ください)

-----キトリ線: 切りとって上記部分を FAX にて申し込みください。-----

<講師から>

<p><input type="checkbox"/> 自閉症という現象に出会って「私たち」の不思議を思う —わかりあうことの奇跡とわかりあえないことの自然— 浜田 寿美男</p> <p>ふだん、おたがいに何となくわかりあえているように思っている「私たち」。でも、思えばそれも長年かけてやっと出来上がってきたもの。そうしてできあがって、身の回りに何かしら&lt;関係の網の目&gt;のようなものをはりめぐらせて、そこに身を乗せて安心しているときは、それが当たり前と思っているけれど、よく考えれば、それはまるで奇跡のようなこと。だいいち「どうしてそんなことができるのか」と、あらためて問われると、それがまったくわからない。そうだとすると、むしろわかりあえないことの方が自然。自閉症の人たちのわかりにくさは、その自然の一つ……かもしれない。</p> <p>そう思いつつも、一方で、自閉症の人たちは「私たち」よりずっとわかりやすい。そう思えるところがある。そのわかりやすさをつないでいけば、「私たち」が身の回りにはりめぐらせているのとは違うもう一つの&lt;関係の網の目&gt;が広がっていくのかもしれない。</p> <p><input type="checkbox"/> 「クマのプーは本当に「おばかさん」なのに、なぜそんな「プー」がこんなに人気があるのか、わからないひとは本当にわからないのですよ。」—小澤勲『自閉症とは何か』から『認知症とは何か』へ 村瀬 学</p> <p>「プー」のマスコットをかばんにぶら下げている女子学生はわんさという。その「プー」をカナダの精神科医シエイたちは「発達障害」と診断していたが、そんな「診断」を聞くと、「プーさん」大好きな女子学生たちからは、きつと悲鳴と非難の声がわき上がるだろう。しかし残念ながら「プー」が「おばかさん」であることは、原作を読めばものすごくはっきりわかるのである。それなのに医師から「プー」が「発達障害」と「診断」されると、私もムカッとする。なぜなのだろう。女子学生たちの大好きな「プー」は、ディズニーアニメ版のプーである。あれは「原作」とは違っている。その比較ももちろんいたし</p>	<p>ましよう。問題はでも原作の「プー」の激しい「おばかさん」ぶりを、どう考えるのかということです。もう少し言えば、こんなに「おばかさん」なのに、どうして世界中で愛されてきたのかという疑問です。それは「発達障害」の「診断」をする発想からは見えてこない秘密です。何の秘密かという、「プー」の住む「百エーカーの森」の秘密です。この本を戦争中の1940年に訳された偉大な翻訳者、石井桃子さんの伝記もたどりながら、その「秘密」を読み解いていけたらと思います。それは、小澤勲さんが『自閉症とは何か』から『痴呆を生きるということ』『認知症とは何か』へとたどられた道をたどり直すことになるような気もしています。</p> <p><input type="checkbox"/> 「心の理論」から、「世界の理論」へ—凡人との「違い」は脳か？それとも隠喩か？ 高岡 健</p> <p>今回は、少しだけ難しい話をします。 チンパンジーを対象とする研究から生まれた「心の理論」は、他人の考えを想像しうる能力を指す言葉として、用いられてきました。また、それが自閉症スペクトラムを有する人々の心を解く鍵であるかのように、言われてもきました。その後、「心の理論」ゲームが下火になってきたと思っていたら、「社会脳」という考えが、一世を風靡しつつあります。</p> <p>一方、あまり知られていませんが、「世界の理論」というものを、自閉症スペクトラムの特徴と考える立場もあります。それは、あいまいな世界を数値化して確かなものに変えようとする、といったほどの意味で用いられる言葉です。このような特徴の把握は、しばしば自閉症スペクトラムの人たちの世界を、(好意的な使用なのですが)エイリアンといった隠喩で表すことへとつながっています。</p> <p>はたして、自閉症スペクトラムを脳へ還元する考えは正しいのでしょうか？また、エイリアンの隠喩で表すことは正しいのでしょうか？ (隠喩:「...のようだ」などの形を用いず、そのものの特徴を直接他のもので表現する方法。)</p>
--	---

○会場 : 大阪社会福祉指導センター

大阪市中央区中寺1-1-54 Tel:06-6762-9471(代)

・大阪方面からお越しの場合 \* 【谷町線】か【長堀鶴見緑地線】「谷町6丁目駅」下車、④番出口(南へ200m)約5分。

・天王寺方面からお越しの場合 \* 【谷町線】か【千日前線】「谷町9丁目駅」下車、②番出口(北へ500m)約10分。

所要時間 ●大阪駅→地下鉄(東梅田経由)20分 ●天王寺駅→地下鉄(谷町線)15分 ●難波駅→地下鉄(谷町9丁目経由)20分